

在宅生活を 支えるために

介護事業部 生活介護課 介護係
訪問介護 サービス提供責任者 鎌田みどり

- できるだけ住み慣れた家に居たい。
- 最期まで自宅で暮らしたい。

ヘルパーとして
何を行っていくべきか。

調理研修

- 食事をとれる事が健康につながる。
- ユニットクッキングへ参加
訪問では使えなかった
- 毎月1つの食材をテーマに調理
じゃがいも、キャベツ、なす、
かぼちゃ、大根など
- 3か月に1回、もみじの家で調理研修



調理研修を続けてきて

- 毎月のレシピを1つのブックへ
実用的なメニューを使えるように
- 1つの食材から作れる



- 自分の味付けを知り、
支援に活かせるように
- 自然とうす味の調理が
出来るようになった

支援で活かせるように
なっている。

在宅での ターミナルについて

K様

男性 介護度4 95歳
夫婦二人暮らし 妻も要介護4。
娘様が介助者
21年7月から訪問介護を利用
月～土曜日毎日昼・夕2回

- 状態低下し、寝たきりへ
- 入院すすめられるが
「家で死にたい」と
強い希望があった。

ご家族の気持ち

- K様の娘様
どうして入院しないのか。治療を受ければ痛みや苦しみが和らぐのに。

入院し延命しても父が辛いだけ。
最期まで家にいたいという、
希望を叶えてあげたい。

ヘルパーの気持ち

- 訪問時に急変したら・・・
強い心配・不安・戸惑い
- 医療措置は出来ない。
体の痛み、辛さがあっても
何も出来ないのでは。

ヘルパーとして出来ること

- 支援毎に血圧測定
声かけし反応を伺う。
- 水分摂取量記載
朝・昼・夕と表へ記載し量を把握
- 出来る限り口から食べていただく
自力で食べられるように
食べられない時は食事介助

- 緊急時対応の再確認
急変時慌てないように
- ご家族様とのコミュニケーション
精神的に支えていく
変化時は責任者・ケアマネへ報告
- ターミナルケアの心構え

ケアを行う中での今後の課題

- 限られた時間内でのケア
- ご本人様の急激な体調の変化
- 夫婦の訪問で起こる問題

最期を自宅で迎えて

- 12月21日夕方永眠される。
- 最期は娘様とヘルパーが看取っている。
- 自宅へ戻られたご本人様はとても穏やかな表情をされていた。
- 娘様から感謝の言葉をいただいた。

ターミナルケアを行って

- 訪問介護初めてのターミナルケア
- ヘルパーとして何ができるのか
ご本人様・ご家族様の支えに

まとめ

- 在宅生活を支え、一人一人に合った介護を行えるよう学んでいく
- 地域に目を向けた
訪問介護を目指す